

# 「一人一人が分かる授業の推進」の取組

妙高市立新井小学校

## 1 分かる授業推進の視点

分かる授業を実現し、恒常的に授業改善していくため、以下の4点を視点として掲げ、取組を推進してきた。

- ① 授業改善による楽しい授業の実現
- ② 授業形態や方法の改善による分かる授業の実現
- ③ 学習規律の定着による分かる授業の実現
- ④ 生活習慣の改善による学習意欲の向上

以下では、その取組の概要と成果について紹介する。その際、今年度上越教育大学教員養成G Pプロジェクトの一環として、ITC教育に関する支援を随時補足しながら述べていくものとする。

## 2 楽しい授業を実践することによる分かる授業の実現

### (1) 国語科を中心にした授業改善への取組の実際

国語科を中心とした授業改善を研究課題として設定し、「目的意識をもって読み、正しく読み取ることのできる子ども」「目的や相手を意識して、自分の思いを書きことができる子ども」を目指し、学力向上プロジェクトが推進リーダーとなり、全職員による共同研究を行ってきた。

まず、学年ごとに目指す子どもの姿、育てたい力の設定と、その実現に向けた実践を行ってきた。また、考えることを中核として、「読むこと」と「書くこと」の連携を図る指導を重視し、年間3単元以上の重点単元を設定し、学年による協力体制で授業改善のための取組を行ってきた。そして、その一端を提案として、学年ごとに計画的に授業公開し、全職員による参観、協議会を通して取組を評価、更なる改善を図ってきた。さらに、長期休業中には、子ども・保護者・職員によるアンケートや子どもたちの具体的な姿や学習成果をもとに取組を評価し、分かる授業実現、楽しい授業のためのアイデアや改善策について話し合ってきた。

一方、重点単元の指導においては、図書館教育の連携を図り、学習を発展させたり、深化させたりする図書や情報を紹介したりして、読みを広げ、深めさせようと努めてきた。また、情報教育との連携を図り、情景のイメージを広げるために、映像コンテンツを活用したり、体験的活動で得られた映像情報を活用したりして、より確かな読み取りができるよう努めてきた。

これにより、子どもたちは、どの学年においても「読むこと」、「書くこと」について、意欲の高まりと共に、その力の向上的な変容を実感している。じっくりと考えることを大切にしてきたことにより、「読むこと」「書くこと」が総合的に高まった。各学年における客観的な成果を示す数値も向上してきている。

### (2) 様々な体験を取り入れた学習活動（生活科や総合的な学習の時間の授業改善）

生活科や総合的な学習の充実を図り、原体験を重視した長期継続的な活動を展開してきた。地域、環境、食と健康、そして、キャリアといった課題に対し、子どもたちの問題意識、個性的な追求、まとめ、表現を大切にしてきた。子どもたちは、追求の方法の一つとして、インターネットを利用して事象に関連する情報を検索したり、学習支援ソフトの映像コンテンツを利用し、事象についての理解を深めたりしていた。体験の中で主体的に活動の記録を（デジタルカメラにより）集積し、まとめに活用してきた。

3年生では、地域探検で訪ねる様々な地域、場所やそこでの人々との交流をデジタルカメラで記録し、それを発表に活かしてきた。4年生でも、川と環境について追求する過程で、グループごとにテーマに即した

場面や事象をデジタルカメラにより記録し、それを素材として新聞へのまとめに活用した。5年生では、自然体験活動における活動の記録をグループごとに撮りため活用したり、郷土の食についての追求活動においてインターネットを利用した情報収集、活用を行ったりしてきた。さらに、追求してきた内容をまとめ、兄弟校である隣接校の5年生（当校同様に、食について追求している）とウェブカメラを使って情報交換、交流を行った。6年生では、キャリア教育の視点から、自らの可能性に挑戦している人たちを調査し、それらの人たちの活動の様子を記録することにより自らのキャリア感を育てる上で役立ててきた。また、自らのつきたい職業についてインターネットを利用して情報収集、活用を行ったりもしてきた。

一方、担任は活動の成果をデジタル映像（静止画、動画）の記録を集積し、定期的に発信する学年だよりや学校だより、PTAだよりをはじめとした広報活動により発信し、地域や保護者の理解・協力を得てきた。また、学習参観や文化祭等においても、子どもたちの言葉や作品により活動を紹介してきた。さらに、保護者と共に感動を共有する活動も随時取り入れ、活動の充実を図ってきた。

子どもたちは、地域や保護者の支援や互いの協力により、活動に没頭し、生きがい感をもって追求した。特に、ITC教育の視点から、メディアを活用した活動を、総合的な学習の時間を充実させる一手段として取り入れることにより、自己有用感や充実感をもって一つ一つの活動を終え、当校の「生きる力」である、「心ときめかせ 学びをひらく」姿に近づいてきた。学校生活アンケートでも、生活科や総合的な学習の時間における学習を肯定的に捉えている子どもたちが増加した。

### 3 少人数指導、個に応じた指導による分かる授業の実現

#### (1) 多様な授業形態を取り入れた学習指導

3年生以上において、国語、算数の教科を中心に、少人数による学習指導を単元に応じて取り入れてきた。3年生では、国語、算数の指導において、多様な形態の授業を取り入れ、子どもたちの興味・関心に応じてクラスを編成して行う授業改善に取り組んできた。5年生では、子どもたちの単元ごとのレディネスに応じて、習熟度別の学習を行ってきた。また、国語科においては学級集団の特性を生かしたティーム・ティーチング（以下TT）による形態を取り入れ授業改善を行ってきた。4年生、5年生では、国語・算数だけでなく多様な学習に、TTによる授業形態を取り入れ、きめ細かな指導に心がけてきた。このような多様な授業形態を取り入れることにより、子どもたちは主体的に学習に取り組むと共に、変化に富んだ学習を良い刺激としながら集中して学習に取り組んでいる。

#### (2) 個に応じた指導を工夫して

子どもたちの下校時の安全確保のため、放課後の活動が制約され、個別指導には時間的に制約を受けている。しかし、子どもたちのノートやワークシート等による日常的な自己評価等により、子どもたちの興味関心、満足度、習熟度を見取り、それに応じた手立てを講じ、指導を行ってきた。

また、コンピュータによる自学自習支援ソフトを活用し、それぞれのペースに応じたドリル学習を導入した。放課後を中心に、主に高学年を対象に利用促進を図ってきた。5年生の子どもたちは、水曜日の放課後を中心に、上越教育大学の院生を中心に支援をいただきながら利用を進めてきた。利用している子どもたちには好評である。今後、授業の補習や発展学習だけでなく、休み時間等を利用して継続指導していく予定である。

### 4 学習習慣、学習規律の定着による、分かる授業の実現

学習習慣、学習規律は良い授業を実現する必要条件である。当校では、全校共通の学習規律として、①学習の始まりの時刻には席に着き、学習の準備をしましょう。（次の学習の時間の準備をしてから休み時間に

します。) ②話をしている人を見て、しっかり聞きましょう。③自分の考えが相手に伝わるようにはっきり話しましょう。(名前を呼ばれたらまず返事。みんなに聞こえるような声の大きさに。最初から、最後まではっきりと。) の三つを設定し徹底を図ってきた。研究授業は、学習習慣、学習規律の徹底の程度を測る場ともなった。

子どもたちの自己評価によると、①～③の全ての項目について、平均 80%以上の達成状況である。高学年に行くにつれて達成率は減少しており、今後も一層の徹底を図っていく。

## 5 生活習慣の改善による分かる授業の実現

### (1) 朝のスタートを大切にした、メリハリのある学校生活の実現

当校では、朝の学校生活の改善に注目し、気持ちの良い、ゆとりあるスタートを切るための取組を行ってきた。全校が揃って朝のスタートを切れるよう取り組んできた集団登校(子どもたちの安全確保が主目的)及び朝活動の計画的な運営により、節度有る学校生活が実現した。また、節目でのチャイムも学校生活に定着し、時刻を守って学習に参加する態度も当然のこととして習慣化してきた。

### (2) 望ましい生活習慣、食習慣への改善、定着

妙高市の「朝元気スタート運動」を受け、家庭との連携により、食事、睡眠といった基本的な生活習慣の定着に向け、実践に取り組んでいる。具体的には、体力向上プロジェクトが推進リーダーとなり、全校体制で「元気アップカード」を活用し、健康的な生活習慣の改善にむけた取組を行っている。学年・学級懇談会や健康を語る会などで、保護者に取組の状況を紹介し、成果や課題について共通理解を図ってきた。このような取組により、学校生活のスタートや学習習慣の定着に効果が現れてきており、子どもの側からの分かる授業の実現も期待できる。